

日本事情・日本文化を取り入れた日本語授業を考える
—国際交流基金教授法シリーズ『日本事情・日本文化を教える』より—

国際交流基金 日本語国際センター

北村 武士

1. 今までの授業をふり返る

1.1. どんなものを取り上げていたか（何を）

皆さんが教えている機関では、「日本文化」や「日本事情」のように独立した日本事情を扱う科目はありますか。また、その科目はどんな内容ですか。具体的には何を教えていますか。その授業は日本人の先生が教えていますか。教科書（教材）がありますか。

→ グループで紹介しあってください。

1.2. 何があるか

文化に関するレディネス・ニーズ調査

日本の高校生についてのイメージ

海外の若い学習者の興味

* 教師が教えたものは・・・

入手しやすい知識や情報から工夫 アニメ、映画なども利用したい

* (情報の少ない) 学習者が知りたいのは・・・

同年代の日本人の日常生活

* (情報を持っている) 学習者が知りたいのは・・・

同年代の日本人の考え、悩み、心理

情報の背景となる歴史、技術、人間

→ 映像の背後にあるものを扱う必要

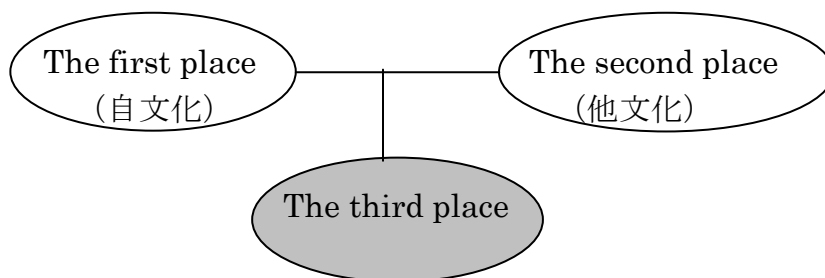
2. 日本事情や日本文化の扱いを考える

どのように扱うか

各国における外国語教育の中の文化

2.1. オーストラリアの例

相互理解の基礎を養うことが、異文化間言語教育／学習の目的の1つとなっている。学習者が、自分の言語や文化に基づく“the first place”（第1地点）と、目標言語やその文化に基づく“the second place”（第2地点）を理解することによってその中間にある“the third place”（第3地点）で、自分のアイデンティティを維持しながら、他文化の人と円滑で快適なコミュニケーションができることが目指されている。



2.2. 米国の例

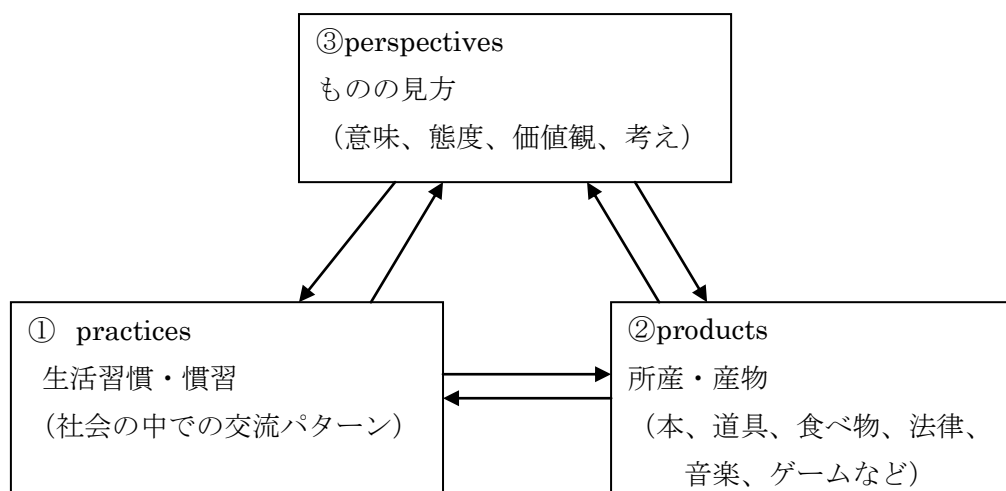
21世紀における外国語教育の方向 (“Standards for Foreign Language learning in the 21st Century”1999)

文化を次の図のように整理して考え、文化理解のための方法を提案している。

ある文化には、(①)「人々の生活習慣や慣習 (practices)」があり、(②)「文化的所産・産物 (products)」がある。そして、それぞれ、その背後にある (③)「人々のものの見方や考え方、価値観などの背景 (perspectives)」と密接に関係している。

そのため、文化を理解する授業の中でも、まず目に見える①や②をしっかりと観察したり、できれば実際にやってみたりすることが大切。そして、そのことについて、分析したり討論したりして、背後にある③について理解しようとしている。

3つのP



考えてください

この3つのPの図を参考にして、台湾での具体的な例を考えてください。例えば、台湾の店やレストランについて、

- ・ そこで起こっていること、人がやっていること
- ・ そこにあるもの

を整理してみてください。

そして、そのような行動や習慣、物などから、台湾や台湾の人たちにどのような背景、考え方が分かるか、グループで話し合ってください。

考えてください

次の2枚の写真は日本の学校の昼食の様子です。この写真を見て、3つのPの①と②を整理してください。そして台湾の学校の昼食と比べて、共通点と相違点を探してください。そしてグループ内で共通点・相違点を比べてみてください。



「みんなの教材サイト」より



「であい」より

質問

上の写真から出した①や②から、どんな背景が考えられるでしょうか。この写真の生徒たちとみなさんやみなさんの学習者は、どんな点で似た考え方をしているのでしょうか。また、どんな点で違う考え方をしているのでしょうか。

学習者が自分の目を見て、自分で考える。



- 1) 自分とは異なる多様な文化や考え方の存在に気づき、視野を広げることができる。また自分や自分の文化をふり返ることもできる。そして、将来、新しいものや自分と違うものと接したときの姿勢を養うことができる。
- 2) 日本語の学習と日本事情や日本文化の学習を一緒に考えることによって、言語と文化がつながっていることに気づくことができる。

2.3. 文化をどう扱うか

話し合ってみましょう

日本国内で「日本事情・日本文化」を教えるときと、海外で「日本事情・日本文化」を教えるときでは、どんな点が違うでしょうか。

文化の扱いについての考え方

- ① 「日常生活」や「言語行動」を大切に扱う。
- ② 授業では、視聴覚資料や本物の日本のものを使う。
- ③ 教師が説明して教えることより、学習者が自分で気づいたり考えたりすることを大切にする。

知識伝達型：文化は「変わらない固定したもの」→知識として教える
⇒知らなかったことや新しい状況には対応することができない

プロセス重視型：・文化の「違い」と「普遍性」の両方を重視する。
学習者が文化を観察しながら、自分で考え、自分で対処していく力を育てるように指導する。
⇒自分と違うものに出会ったときに対処できる。自分について再認識できる。

3.内容を考える

日本語の授業をしながら、その時間の中で日本事情や日本文化を、いつ・どのように取り上げたらいいでしょうか。

3.1.本文中の「日本に関係のあることば」

例、『みんなの日本語 初級1』の第5課～第10課の中で日本に関係のある言葉です。分類してみてください。

第5課	京都、奈良、東京、新幹線、甲子園、大阪城、広島、九州、名古屋、博多、神戸 伏見、「普通」、「急行」、「特急」、～円
第6課	神戸、奈良、大阪城公園、京都、東京、花見
第7課	新幹線、はし、大阪城、京都、
第8課	富士山、桜、大阪、琵琶湖、東京、「七人の侍」(映画)、奈良、金閣寺、大阪城、 長崎、～円
第9課	小沢征爾(指揮者)、日本料理、京都、神戸、カラオケ、歌舞伎
第10課	東京ディズニーランド、千葉県、
第11課	～円、大阪、東京、新幹線
第12課	北海道、九州、京都、東京、日本料理、てんぷら、祇園祭、大阪、お祭り、なら 公園、歌舞伎、生け花、お酒、紅葉の季節

日常生活や行動を表すことば

日本にも台湾にもある事柄だけれど内容の異なるものはありますか。

3.2.本文中の文化とことば以外のもの

次の『みんなの日本語II』の会話で、日本についてどんなことが分かるでしょうか。

会話文から何が言えますか

4 素材を考える

4.1. 日本に触れることができる環境

台湾では日本語学習者はどのようなときに、日本に触れることができるでしょうか。具体的に考えてください。

→ ()

4.2. 写真を利用する

1. 教材を使う

「みんなの教材サイト」 <http://momiji.jp/kyozai/index.php>

・「Deai (出会い)」

<http://www.tjf.or.jp/deai/index.html>

2. 自分で撮る

写真を教材として使う場合の長所と短所は何でしょうか。

長所：

短所：

写真は1枚だけ見せるとイメージが固定してしまうことがある。

4.3. 動画（映像）を利用する

1 教材を使う

『エリンが挑戦！ にほんごできます。』

『レアリア・生教材 コレクション CD-ROM ブック』

2 自分で撮る

質問

動画を教材として使う場合の長所と短所はなんでしょうか。

長所：

短所：

4.4. 「レアリア（実物）」を使う

教育のためにわざわざ作られたものではなく、実際の生活で使われているもの。

1. 教材を使う

・『レアリア・生教材 コレクション CD-ROM ブック』

2. 自分で集める

教材に出ているイラストとレアリアを比べてみましょう。

レアリアの利点は

学習者の興味をひきつけることができる。
 教室を実際の場面に近づけることができる。
 日本の生活や文化も見ることができる。

質問

次のことを教える場合、どんなレアリアが使えるでしょうか。

文型やトピック	利用できるレアリア
月日	
時間	
～と～とどちらが～ですか。	
注文する	
友だちをさそう	

4.5. 人（日本人や日本をよく知っている人）を招く

ビジターセッションなどで日本人をゲストとして招待した場合、どのような活動ができるでしょうか。

日本人全体の代表だとは考えない →いろいろな背景や環境、意見の違いがある。
 ×日本人は△△△である。

ことさら違いに目を向けるのではなく、同じ点・共通点にも目を向ける。

4.6. データを利用する

いろいろなデータをインターネットで見ることができる。

台湾のデータと比較してみるのもよい。

<http://www.nri.co.jp/news/2003/031215/031215.pdf>（野村総合研究所）など

*『中・上級の日本語教科書 日本への招待』東京大学出版会 2001年

5 「日本事情・日本文文化」を意識した授業を計画する

活動を計画するのに大切なポイント

学習者が、自分で考える機会をあたえる。

5.1. いろいろな活動例

活動例1 初級の授業

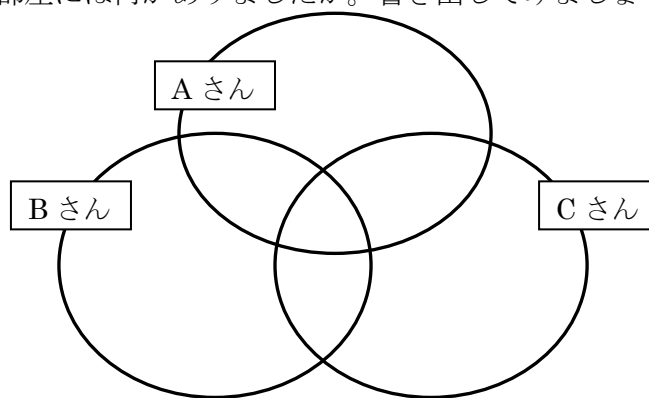
*タスクシート1 次の映像を見て部屋にあったものをチェックしてください。

	Aさん	Bさん	Cさん
つくえ			
電子オルガン			

コンピュータ			
テレビ			
ベッド			
ぬいぐるみ			
その他			

*タスクシート2

①映像で見た部屋には何がありましたか。書き出してみましよう。



②あなたの部屋にあるものを書いてください。書けたら隣の人と比べてみてください。または、グループで「私の部屋には〇〇があります。」と発表してください。そして他の人の発表を聞いて、表に書き込んでください。

あなたの部屋	さんの部屋	さんの部 屋	さんの部屋

③ ①と②で整理したものを比べて、気がついたことを話し合いましよう。

例「私たちの部屋には_____がありますが、△△さんの部屋には_____がありません。」

「私の部屋と、Cさんの部屋は_____ですが、Aさんの部屋は_____です。」

その後、母語でもよいのでいろいろ部屋の様子について話し合う。(共通点にも注意)

活動に大切なポイント

日本人や自分の国の人のイメージを一つに決めない。

活動例2 文字の授業に取り入れる

文字を教えるときには、いろいろなレアリアが利用できます。

- ① 日本の看板や店の名前の写真を利用して、カタカナを教える。
- ② 写真から気づいたことをみんなで話し合う。

できるだけ、学習者の考えさせるようにする。教師が一方的に話さない。

*写真の撮影の構図、写真の見せ方について、考えてみましょう。

活動例3 初級後半の読解練習に取り入れる

- ① 次の3つの文章を与えて、それぞれがどの写真のことかを考えさせる。
- ② A~Cは客にとってどのようなサービスになっているか、どうしてそのようなサービスがあるのか、考えさせる。

活動例4 日本人のビジターを招く授業

- 1) ビジターセッション: 学習者の興味や日本語のレベルや授業で扱っている内容などを考慮して、テーマを決める。
- 2) ビジターの背景(年齢、職業、日本を離れて何年ぐらいかなど)を調整する。
- 3) 事前に質問などを準備させると良い。一問一答にならないようにする。質問は日本人が受けたら、答えてから「台湾ではどうですか」と質問してもらうなど。
- 4) ビジターの答えが日本人全ての考えではないことを、ビジター・学習者の双方に確認しておく。
- 5) ビジターには、事前に「分からないことは分からない、と言っても良い」「教師にならないように」などを頼んでおく。
- 6) 終わったら、ビジターにも感想を話してもらう。
- 7) 学習者は、後で話し合った内容や感想をまとめて報告する。

活動に大切なポイント

「もの」や「行動」が違う人の意見を聞いたり、理由、背景を考える。

活動例5 学習者自身に調べさせる

学習者が自分自身で興味を持ったことを調べて発表する。

- ① 学習者をグループに分けて、関心のあるテーマから、調査研究を行うテーマを決めさせる。

- ② 学習者が普段から使っているリソースを確認し、教師からもいくつかの材料を紹介して、テーマについて調べさせる。
- ③ 調べたことをポスターやパワーポイントにまとめたり、報告したりさせる。
- ④ 報告内容を聞いて、クラスで自分の国との共通点や相違点とそれぞれの背景または自分の国と日本のつながりなどについて考えさせる。

5.2.グループで活動を考える

グループで考えましょう

日本事情を扱った教室活動を考えましょう。学習者のレベルや人数はグループで相談して想定していいです。皆さんが使っている教科書で教える部分を選んでください。

*どんな日本文化に着目するか *何を利用するか? どんな活動をするか?

5.3.短い時間で「日本事情・日本文化」を扱うポイント

*学習者が（短い時間でも）

「自分で」見る・発見する・考える機会を作る

*「違う」→「なんかいやだ」にしない

共通点も大切、背景を思いやる など

↓

自文化への内省・他文化、多文化への理解

6 学習者が学んだことを確認する

海外で日本語（外国語）を学習する目的

→1つは：自分とは違う文化があることに気づき、広い視野を持つこと。

目的（学習目的）が達成できたかを測る

↑学んだ知識や情報の量や正しく覚えているかをテストするのではない。

学習者が授業を通して、どのように考えるようになったか、を確認することが大切。

6.1 ポートフォリオ

学習者が学習過程で作成したものと自己評価の記録、教師のアドバイスや評価などをファイルに集めて整理して、学習者の能力の発展が分かるようにするもの。

→最後の成果だけを保存するのではなく、コースの最初から最後まで、学習者がどのように考え、変化していったかが分かるように保存する。

・振り返りシート①：授業を受ける前に持っていた知識や情報、イメージなどを記録させ、それが活動や授業でどのように増えたか、変わったかを学習者自身も教師も観察することができるシート。教師も内容を確認し、コメントをつけて返却し、それもファイルに保存していく。

・振り返りシート②：コースや学期の終わりに、それまでファイルに保存した成果や記録をもう一度見る機会を作る。

→学習者は自分の考え方がどのように変化したり成長したりしたのかを自覚することができ、これからの授業を受ける姿勢を見直すことができる。

教師は学習者1人1人が学んだことや考えたことを知ることができ、今後の授業に生かすことができる。

ポートフォリオの教師のコメントは学習者がもっと関心を広げることができるようなヒントやアドバイスを書く。日本語のチェックはしなくてもよい。

自分でファイルを見るだけではなく、学習者同士で見せ合うのもよい。

6.2 ルーブリック

ルーブリック：評価の基準となる「ものさし」。ポートフォリオのファイルの中に一緒に入れておくこともできる。コースの目標や授業の方針、活動方法とルーブリックの評価基準は合っていないなければならない。

授業の前などに学習者にも見せて評価基準を意識して活動させたり、学習者自身も自己評価をしたりする使い方もできる。

参考文献

『日本事情・日本文化を教える』（国際交流基金 日本語教授法シリーズ第11巻）

『すぐに使える「レアリア・生教材」アイデア帖』

国際交流基金 2006年スリーエーネットワーク

『すぐに使える「レアリア・生教材」コレクション CD-ROM ブック』

国際交流基金 2008年 スリーエーネットワーク

『JF 日本語教育スタンダード 2010』国際交流基金 2010年

『JF 日本語教育スタンダード 2010 利用者ガイドブック』国際交流基金 2010年

『中・上級日本語教科書 日本への招待』東京大学 AIKOM 日本語プログラム

2001年 東京大学出版会

『異文化トレーニング』八代京子他 1998年 三修社

「韓国中等教育機関への留学生ボランティア派遣プログラム実践報告——国際交流基金ソウル日本文化センターにおける日本語ネイティブ・ゲスト派遣の試み——」『国際交流基金日本語教育紀要』第6号 長田佳奈子他 2010年 国際交流基金

「生活者1万人アンケートにみる 日本人の価値観・消費行動の変化」野村総合研究所

<http://www.nri.co.jp/news/2003/031215/031215.pdf>

「子ども生活実態基本調査報告書」Benesse 教育研究開発センター 調査・研究データ

http://benesse.jp/berd/center/open/report/kodomoseikatu_data/2009/

「全国のチラシ タウンマーケット」：<http://townmarket.jp/>